Letter from Samoa

サモア通信 14th
Feb.2019
豊橋南高校
青年海外協力隊
松川博明

Talofa!!サモア生活も残りわずかとなりました。自分はサモアに来て、人生で初めて「国際協力」というものに関わりました。今回は国際協力についてサモアで感じたことを綴りたいと思います。

○サモアにおける国際協力の現状

「援助慣れ」サモアでよく耳にする言葉です。この言葉が表す通り、サモアに対しては世界中の多くの国から支援が入っています。サモアの人口は約２０万人ですが、海外（主にニュージーランド）で働いているサモア人も２０万人程います。このことから、いかにサモアで産業を発展させることが難しいか分かると思います。サモア国内でお金を稼ぐことが難しいため、海外へ出稼ぎに出て家族へ送金している家庭も少なくありません。そのため、大規模な事業（空港や学校の建設）には海外からの支援が欠かせない状況となっています。「お金が無ければどこかの国が支援してくれる」このような考えが深く浸透しているようにも感じます。

○自分の活動はサモアのためになっているか

この１年７ヶ月、サモアのカレッジ（中高等学校）で理科と数学を教えてきました。はっきり言って「サモアのため」には何もできていません。そも

そも 20 代の若者が単身でサモアに来たところで大きなことができるわけありません。しかし、目の前の人達のために小さなことを継続することはできるかもしれない、そう思いながら活動をしてきました。確かに大きなことは何もできませんでしたが、継続することで大きな感動を共有する瞬間には出会うことができました。文化や言葉が違っても、本気で向き合えば大きな感動を共有できる。異国の地に長く住んだからこそ出会えた瞬間でした。

○今後のサモアの未来

これからサモアという国がどのように変化していくのか、誰も分かりません。経済、産業の発展となると、まだまだ援助に頼るしかない部分はたくさんあるのは事実です。しかし、サモアにしかない素晴らしさがたくさんあるのも、また事実です。サモアのホスピタリティの精神や、フレンドリーで、いつも笑顔で声をかけてくれる国民性にいつも救われていました。これからもサモアの良さを保って、素敵な国であり続けて欲しいと心から願っています。

○最後に

いよいよ帰国が差し迫ってきました。サモアのことが好きになり過ぎてしまい、日本に帰ることに寂しさを感じています。しかし、帰国後はこのサモアで感じた数えきれない経験をみなさんと直接共有できることがとても楽しみです。ここまで約２年間サモア通信をご愛読いただきありがとうございました。それではみなさん日本で会いましょ～！！Fa soifua。

Letter from Samoa

サモア通信 13th
Jan.2019
豊橋南高校
青年海外協力隊
松川博明

Talofa!!Happy new year!!あけましておめでとうございます。2019 年第１号はサモアの宗教と、それに関する文化や風習について綴っていきます。

○大多数はキリスト教

サモアは国民の約 95%がキリスト教です。キリスト教と言っても、多くの宗派が存在しています。エファカサ、カトリック、メソジストなど 10 以上の宗派があります。その他の 5%はイスラム教、モルモン教が多く、基本的にどんな宗教もお互いの考えを尊重する姿勢が見られます。学校行事にもイースター祭（キリスト復活祭）など宗教に関する行事が度々行われています。

○強い信仰心

1800 年代にエファカサが伝来し、疫病や自然災害の際に、キリスト教を信仰していた国民が救われたという逸話も残っており、宗教に対する信仰心はとても強いように感じられます。学校では毎朝 Bible Reading と呼ばれる聖書の一節を共有する時間が設けられていたり、時間割に「Christian Education」という時間が設けられていたりもします。学校においても村においても宗教を中心に生活が成り立っているように感じます。

○宗教的な慣習

日が暮れる頃、村を歩くと村の至る所からお祈りの歌や祈りを捧げる言葉が聞こえてきます。サモアでは毎晩、神に祈りを捧げる時間があります。イメージとしては仏教でいう念仏を家族で唱えているような感じです。また、キリスト教徒にとって日曜日は神聖な日とされています。午前中に教会でお祈りが行われ、その後家族で盛大なごちそうを食べます。ごちそうといっても一家で一品を大量に作り、ご近所さんとシェアすることで、ごちそうっぽくなる感じです。そして神聖な日ゆえに、買い物、洗濯等の活動は一切禁止です。ですので、日曜の午後は村が眠ったかのように自然の音しか聞こえない静かな時が流れます。

○異なる文化・宗教に対する自分の在り方

自分はカトリック信仰の家族のもとでホームステイをしています。カトリックの風習として、毎朝６時から１時間程のお祈りを教会でするというものがあります。信仰心が大変強い一家なので毎日早朝のお祈りをしてから仕事や学校などに出かけます。自分も家族の風習を大切にしようと試み同行しましたが、１ヶ月で諦めました。しかし、日曜日は特別に尊重すべき日であるため、毎週家族と同行して教会に行っています。自分のスタンスとしては、「相手の文化を全て尊重するが、全て肯定することは難しい」という感じです。相手のことを尊重し理解しようと努めます。しかし、日本人としての信念も大切にして自分の行動に折り合いをつけています。今後日本に帰っても、まずは相手のことを尊重し理解しようと努めた上で、自分の意思決定や行動をしていくことが大切なのではとサモアに来て改めて感じるようになりました。それでは今年もよろしくお願い致します。Fa soifua.

Letter from Samoa

サモア通信 12th
Nov.2018
豊橋南高校
青年海外協力隊
松川博明

Talofa!!１１月になり、こちらサモアでは雨季に突入して、身も心もじめじめした生活を送っております。さて、今回のサモア通信では「**サモアの言語**」について綴りたいと思います。

○サモアの公用語

サモアには「サモア語」と「英語」２つの公用語が存在しますが、サモア人同士の日常生活では基本的に「サモア語」しか使われていません。首都やホテルなど、外国人が立ち寄る場所に関しては英語が通じます。むしろ首都で働くためには英語が堪能でないと働くことは難しいように感じます。ちなみに自分のホームステイ先は 10 人中３人しか英語でのやりとりはできないため、家族とはサモア語でやりとりをして生活しています。

○サモアの英語レベル

サモアでは小学校１年生から英語学習がスタートします。しかし、教科書は存在しないため、圧倒的に Speaking に偏った学習スタイルです。その結果、中高生の中でも英語が得意な生徒の中には、文法の知識は乏しいものの、とても流暢に英語を話す生徒もいます。ただ、現状としては中学生段階で簡単な英会話ができる生徒は３割程度、高校生段階でも６割程度な感触です。最高学年まで修学している生徒の多くは英語のやりとりが得意のように感じます。

○サモア語ってどんな言語？

「Talofa. O lo’u igoa o Hiro. O a’u o le faia’oga. Na ou sau i Samoa tausaga te’a.」こんな言語です。ご覧の通りアルファベットが使われています。そして発音も全てローマ字読みなので日本人には馴染みやすい気はします。しかし、文法や単語に関しては全く英語と違うので、ゼロから新たな言語を学習している感覚です。ただ、新しい言語を学び、コミュニケーションをとることは本当に面白いです。自分がサモア語を習得することで、サモア人と意思疎通ができます。やはり、言語は勉強するものではなく、コミュニケーションツールであることを改めて感じています。

Talofa(タロファ)	こんにちは(丁寧語)
Malo(マロ)	こんにちは(カジュアル)
O a mai oe?(オアーマイオエ)	元気ですか？
Manuia. Fa’afetai. (マヌイア　ファアフェタイ)	元気です。 ありがとう。
Fa soifua. (ファーソイフア)	さようなら。

○言葉以上に大切なもの

現在サモア語７割・英語３割くらいを使いながら楽しく生活していますが、**「サモア語で話した方が圧倒的に親密になれる」**と感じます。やはり、サモアで生活をしている以上は彼らが大切にしている言語を尊重し、その言語で寄り添うことが大切なのかと思います。しかし言語以上に「行動や態度」の方がさらに大切です。言葉でうまく伝わらなくても、行動と態度で相手は理解してくれます。さらに、どのような人間かも認識してくれます。これからも「受け入れてもらっている」という感謝の気持ちを、言葉だけではなく、行動と態度で伝え続ける生活を送りたいと思います。みなさんも身近な人に、言葉だけではなく、行動と態度で感謝の気持ちを伝える姿勢を大切にして欲しいと思います。それでは Fa soifua。

Letter from Samoa

サモア通信 11th
Sep.2018
豊橋南高校
青年海外協力隊
松川博明

Talofa!!サモア生活も残り半年。日々の生活はのんびりした南国の雰囲気ですが、過ぎ去った時間はとてつもなく早く感じている今日この頃です。さて、今回のサモア通信では「**サモアの理科教育**」に焦点を当てて綴りたいと思います。

○小学校の理科教育

まず、サモアの小学校には全ての科目において教科書は存在しません。カリキュラムはニュージーランドのものを使用し、先生達はそれに沿って授業を進めることになっています。しかし、理科については先生達も知識が乏しいため、それぞれの先生が教えられることをそれなりに教えているという状況です。先生によっては、ほとんど理科の授業が行われていないこともあります。

○カレッジ(中学レベル)の理科教育

カレッジでは各教科、学校に数冊ほどの教科書は存在しますので、先生達は教科書に沿って授業を進めています。生徒用の教科書は存在しないので、先生の板書を必死に写したノートが生徒にとっての教科書となります。中学レベルの理科については、必修の学校と選択科目の学校があります。自分の配属校では中学レベルの理科は必修となっています。しかし、多くの学校では教科書に沿って行われているものの、担当の先生の専門外のトピックは飛ばされていることがほとんどです。配属校では生物専門の先生しかいないため、化学の半分程度と物理分野全ては行われていないのが現状です。

○カレッジ(高校レベル)の理科教育

高校レベルの理科は生物、化学、物理が存在し、選択科目となっています。基本的に高校レベルで理科を選択する生徒は学年の上位１割程度のトップ層のみです。昨年度はサモア全土で約 2000 人の受験者のうち、物理選択者は約 200 人でした。また、高校レベルの教科書については、基本的に全科目教員用のものは存在しているのですが、化学と物理のみ存在していません。そして、これらを教えられる教員もサモア全土でも少数です。多くの学校では「教員がいない」という理由で物理、化学が開講されていません。大学や教育省の教員養成過程についても理科においてはしっかり確立されていないのが現状です。

○やりたいことができる幸せ

このような中で自分は協力隊として何ができるのか、考えて行動してみるものの、それでも答えが見えない毎日を過ごしています。しかし、目の前に「理科を勉強したい」という生徒がいる以上は、彼らのために全力を尽くすことが自分のできることなのかと認識しています。こうして考えると、当たり前だと思っていた日本の教育システムのありがたみを感じることが多々あります。子ども達が学びたいことを自分で選択して学ぶことができ、全ての教科において、教科書、教員が存在しており、そして何より、自分の将来を自分で決定することができます。そんな状況の中、南高校のみなさんはどんな意思決定をし、どんな将来を作り上げていきますか。半年後に聞くのを楽しみにしています。それではまた会う日まで。Fa soifua。

Letter from Samoa

サモア通信 10th
July.2018
豊橋南高校
青年海外協力隊
松川博明

Talofa!!サモア到着から７月末で１年が経ちます。毎日スローライフを送っていても過ぎ去ってしまうとあっという間に感じます。今回は１年サモアで過ごして発見した、ありとあらゆる物をシェアする、ちょっと面白いサモアのシェア文化を紹介したいと思います。

○食べ物のシェア

物を食べている人と目が合うと「ちょっと食べる？」と必ず聞いてくれます。同僚の先生や家族はもちろん、バスを待っている知らないおばちゃんからも聞かれます。逆に自分が何か食べていると「何食べてるんだ？」と聞かれます。そのときはどんなに腹ぺこで全部食べたかったとしても、「ちょっと食べる？」と聞き返します。それがサモアンにとっての当たり前だから。初めは抵抗がありましたが、今となっては食べ物をシェアすることに喜びすら感じるようになりました。

○文房具のシェア

サモアの学校では授業中であろうが、テスト中であろうが、文房具が飛び交っています。黒ペン、鉛筆は 90%以上の生徒は持っていますが、消しゴム、赤ペンとなるとクラスの半数は持っていません。はさみ、ホッチキスとなると教員ですら持っていません。「ちょっとペン貸して」と言われて貸すと７割は自然と返ってきますが、３割はこちらから取り返さないと返ってきません。先日は「赤ペン貸して」と言われて貸したら、採点し始めて、５時間後にインクがなくなった状態で返ってきました。「全ての物はみんなの物」という文化を肌で感じながら楽しんでおります。

○その他のシェア

・携帯電話　よく電話貸してと言われます。誰かの携帯が鳴っていたら、とりあえず電話をとってから持ち主を探すことも多々あります。

・火　サモアの家庭では火をおこして料理をすることが多くあります。先日は隣人が木の枝を持ってきて、「少し火を分けて」と来ました。

・眼鏡　「眼鏡貸して」と言われたときは意味が分かりませんでした。「俺見えなくなっちゃうし、あなたの度数と違うやん！」これは１度しか言われたことがありませんがツッコミどころ満載で本当に面白い感覚だなぁと感じました。

○文化を大切にすること

今回はシェアを中心にサモアの文化を紹介しましたが、みなさんがこの状況下だとイライラしますか？すぐに適応できますか？異文化を完全に理解することは難しいと思います。なぜなら自分には日本人としての侍魂が宿っているから。それでもお互いの文化の違いを理解して、尊重する努力は必要だと感じます。ただ、それは日本人同士でも同じこと。相手との違いを理解して、お互いの考えを尊重することでよりよい関係が築けるのではないでしょうか。サモア人とか日本人という捉え方ではなく、１人の人間として目の前の人の考えを尊重して接していくことが大切なのかなぁと思います。そうすることで、お互い居心地の良い関係を築ける、そんな気がします。みなさんも周りの人の考えを尊重して接することで、さらによりよい人間関係が築けるかもしれませんよ。それでは Fa soifua!!

Letter from Samoa

サモア通信 9th
June.2018
豊橋南高校
青年海外協力隊
松川博明

Talofa!!サモア到着から 10 ヶ月が経過しました。派遣期間が 20 ヶ月の自分にとっては帰国までの折り返し地点となりました。今回はこの 10 ヶ月の活動の振り返りを綴りたいと思います。

○サモア到着から４ヶ月（７月末～１１月末）

この期間は何もかもが新鮮でした。学校配属とともに、田舎の村でホームステイが始まりました。学校では低学年(中学レベル)に対して理科の授業を配属初日から行うこととなりました。英語が通じない生徒にサモア語と実演を交えての必死の授業でした。意思疎通もままならない状況での理科の授業は初体験でなかなか面白いものでした。

○年度替わりの２ヶ月間（１１月末～１月末）

11 月半ばで今年度の授業が終了しました。理由は国家試験（日本のセンター試験に相当）を２週間かけて行い、卒業式があり、１ヶ月半の長期休みに入ったからです。この期間はサモアのゆったりした生活を満喫するとともに次年度に向けての準備を着々と進めていました。しかし、自分にできることはなんなのか、何が求められているのかが見えてこずモヤモヤを抱えて過ごした時間でもありました。

○新年度開始から現在（２月～６月）

サモアの学校は新年度が始まってから教員の人事が発表されたり、生徒登録が行われたりします。そして生徒数、教員数などが確定した後、自分の役割も決まっていきました。上半期では以下のようなことを実施しました。

1. 高学年(高２,3 相当)に対して物理、化学の授業

現在本校には物理、化学を専門とする先生がいません。サモア全体でもこれらの先生は少なく、生物専門の先生や数学の先生が教えている状況が多くあります。そこでボランティアの自分が、理科の指導をしています。帰国後のことも考えて、できるだけ現地の先生と共に授業を行うように心掛けています。また低学年の理科の授業にも実験の補佐で入ることも度々あります。

2. 教材作成

化学、物理の教科書がサモア独自のものは存在しません。現地の先生も海外の教科書等を参考にしている感じです。そこで、自分の授業内容をサモアのカリキュラムに沿った形で全てデータ化、書籍化を行っています。また実験に関してもマテリアルやプリント等を形として残るように作成しています。

3. その他諸活動

時間があるときに日本の文化や歌を紹介したり、基礎計算のドリルを各クラスで実施をしたりもしています。また長期休暇には、大学に出向いて、教授や学生に対してセミナーを実施しました。

○何が正しいか

赴任して 10 ヶ月が経ち、少しずつ活動が充実している感じはありますが、本当にこれが正しいのか、いつも自分と葛藤しています。しかしどんな状況であったとしても、目の前の生徒や先生達のために自分ができることを追求して、サモアンなペースで肩肘張らずに楽しみながら活動をしていきたいと思います。それでは Fa soifua!!

Letter from Samoa

サモア通信 8th
May.2018
豊橋南高校
青年海外協力隊
松川博明

Talofa!!日本では気温が高くなるとともに梅雨の訪れを感じている頃でしょうか。サモアでは長い雨季が終わり、ようやくカラッとした乾季が始まったところです。さて、今回のサモア通信ではサモアの「食」について綴っていきたいと思います。

○主食は「タロ、ウル、バナナ」

サモアの主食で最も有名なのは「タロイモ」です。我が家の食卓にもココナッツクリームがかかったタロがよく出てきます。もちもちした甘みのある芋って感じで個人的には大好きです。そして次なる主食は「ウル」です（写真参照）。ブレッドフルーツとかパンの実とも呼ばれています。そして「バナナ」。日本と同じ熟した黄色いバナナは稀です。熟していない固い緑色のバナナを茹でてココナッツクリームをかけて食べます。

○調理方法は「サカ」と「ウム」

これら主食達のサモア伝統の調理方法は２つあります。１つ目の「サカ」は、火をおこして鍋で茹で上げるだけです。そして２つ目は「ウム」。赤熱した石を平らに広げて、その上に食材をのせて、バナナの木の葉っぱを被せて蒸す（写真参照）。どちらも自然にあるものだけを利用した超エコな調理方法です。

○野菜が食卓に出たらラッキー

主食以外のその他の食べ物についてですが、**野菜が限りなく少ない**です。我が家で摂取している野菜は、茄子、キュウリ、タマネギぐらいでしょうか。これらが食卓に出たときはラッキーです。ちなみに肉や魚は割と簡単に入手できています。マンゴー、パイナップルなどの美味しい南国フルーツもかなり安く入手することができるのはありがたいですね。

○究極に偏った栄養バランス

ご察しの通り、栄養バランスは激しく偏っています。炭水化物とタンパク質が圧倒的に多く、味付けも大量の塩と醤油を使ったかなり濃い味付けで塩分高めです。しかし今のところ体調を大きく崩すこともなく、体重も全く変化することなく健康そのものです。

○それでもサモアが大好きです

サモアン料理いかがでしょうか？自然から得られるものを自然のエネルギーを利用し、先人の知恵によって生み出された伝統料理。味に関しても個人的にはかなり美味しく大好きです。というより自分は「これは美味しい！」と洗脳すればほとんどの食べ物を美味しく感じることができるようになってきました。ある隊員には味覚障害だと言われたこともあります。料理は美味しい部分を感じるように、サモアの人達や文化の良いところを大切にして生活していくことで、どんどんサモアのことが好きになり、日々が楽しいものになってきているのを実感します。みなさんも身近な存在の良い部分を大切にして生活してみると少し違った世界がみられるかもしれませんよ。当たり前の存在に感謝する姿勢が新たな気づきを与えてくれる、そんな気がします。それでは Fa soifua!

Letter from Samoa

サモア通信 7th
Apr.2018
豊橋南高校
青年海外協力隊
松川博明

Talofa!!日本では春の暖かさを感じている頃でしょうか。サモアは相変わらず真夏です。おかげで花粉症の被害に合うことはありませんでした。さて、新年度もサモアの様子や協力隊の活動を伝えていきますので、どうぞよろしくお願いします。今回のサモア通信はサモアの学校の流れと自分の活動について綴っていきます。

○サモアの学校の１年

サモアの学校は以下のような４学期制です。

Term1	1/29～4/6	10weeks
break	4/7～4/22	2weeks
Term2	4/23～6/29	10weeks
break	6/30～7/15	2weeks
Term3	7/16～9/21	10weeks
break	9/22～10/7	2weeks
Term4	10/8～12/14	10weeks
break	12/15～1/27	6weeks

いかがでしょうか？ご察しの通り休みが多いです。サモアの先生に「break は何するの？」と聞いたら、「Break is break」何もしないみたいでした。

○授業のシステム

授業は月～木は 40 分×７で金は 50×５という構成です。必修科目は「英語」、「数学」、「サモア語」で、その他の科目は選択となっています。日本に比べると選択科目が多く、「好きなことを集中して学ぶ」環境が整っているのかもしれません。逆の捉え方をすると、「学ぶべきことを学ばずに」卒業してしまう生徒も多くいるような気もします。

○校内での自分の役割

我が校には物理、化学の先生はいません。というよりサモア全体として理科の先生が圧倒的に不足しています。そこで自分が現地の先生と協力しながら、高学年の化学、物理を教えています。また、実験方法についてもほとんどの先生が熟知していないため、学年問わず実験のサポートも求められています。また、残り１年間理科の指導をしても自分が帰国したとき、我が校での理科教育は途絶えてしまう可能性もあります。そうならないために、帰国後も残るようなシステムやマテリアル作りにも挑戦しています。

○国際協力ってなんだろう

青年海外協力隊としてサモアでの活動も残り１年をきりました。自分は何のためにサモアに来ているのだろうと考えることが多くあります。果たして自分の活動はサモアの人達のためになっているのか不安に駆られることもあります。「協力隊として派遣されているからには何か残さなきゃ！」と気負ってしまっている自分がいたのかもしれません。しかし、重要なのは「目の前の人のために全力を尽くすこと」だと感じています。大きなことは自分にはできなくても、小さなことを続けることはできる気がするんですね。それがいつか自分が関わったサモアの人達にとってかけがえのないものになったら、それが１つの「国際協力」の形なのかなぁと感じます。皆さんもこの機会に「国際協力とは何か？」ということを考えてみたらいかがでしょうか。それでは今年度もお互い素敵な１年にしていきましょう！Fa soifua!!

Letter from Samoa

サモア通信 6th
Mar.2018
豊橋南高校
青年海外協力隊
松川博明

Talofa!!サモアでは先月サイクロンが直撃し、自然の猛威を肌で体感することとなりました。そこで、今年度最終号のサモア通信では、サモアの自然災害について綴りたいと思います。

○サモアにおける地震・津波

サモアは太平洋プレートとインド・オーストラリアプレートの境界付近に位置している島国で、日本と同じく地震がとても多い国です。近年では2009 年に、サモア沖地震と呼ばれる M8.1 の地震が発生しました。津波によってサモア南部地域の村が壊滅し、180 人以上の死者が出たそうです。サモアの人口が約 18 万人なので、1000 人に１人という高い割合であり、被害の大きさが改めて感じられます。

○サイクロン直撃

２月９日から１０日にかけてサイクロン「Gita」がサモアに直撃しました。直撃前は「台風みたいなもんかなぁ」と安易に考えていましたが、サイクロンは予想をはるかに超えてきました。平均風速 40m/s という、日本のめちゃくちゃ強い台風と同程度のものであり、我が家の大切な食糧である、バナナとパパイヤの木が多くなぎ倒されていました。しかし、サモアを通過後、平均風速 60m/s にまで勢力を増し、トンガへ直撃しました。トンガでは多くの家屋が倒壊するほどの被害だったようです。ちなみに前回のサイクロンは４年ほど前だったらしく、日本の台風のように頻繁に発生するものではないみたいです。

○断水・そして停電

今回のサイクロンでは家屋等は無傷であり、死者がでるようなことはなかったようです。しかし、我が村では「停電・断水」が発生し、２ 大インフラが使用不可となりました。もともと毎晩断水している我が家では夜は雨水タンクの水を利用しているので、今回断水が１週間程続きましたが、そこはすぐに適応できました。問題は停電。なんと**３週間**続きました。いや本当に長かった。

○停電から感じた「当たり前の基準」

夜はろうそくでの生活。子ども達は慣れないろうそく生活にテンションが上がり、いつもより盛り上がっていました。しかし２週間もすると停電に関する会話すらなくなりました。電気がないことが「当たり前」となったのでしょう。電気がなくて不便ではあっても、案外普通に楽しく生活はできます。置かれた環境の中で楽しく生活する大切さを感じました。サモアに来て７ヶ月が経過し、いつしか「サモアにいることが当たり前」と感じている自分がいます。しかしこの時間は「当たり前」ではなく、とても貴重な時間だと改めて捉え直し、残り１年間サモアでの生活を楽しみたいと思います。みなさんの「当たり前」の高校生活も人生で今しかない貴重な時間です。大切に、笑顔で楽しく過ごして欲しいと思います。それではまた来年度！Fa soifua!

Letter from Samoa

サモア通信 5th
Fab.2018
豊橋南高校
青年海外協力隊
松川博明

Talofa!!今年度も残りわずかとなりましたが、みなさんいかがお過ごしでしょうか。３年生にとってはこれが最後のサモア通信ですが、引き続き来年度も南高校 HP に掲載予定ですので、是非読んでいただければと思います。さて、今回のサモア通信では、サモアの「Prize Giving」について紹介したいと思います。

○Prize Giving って何？

Prize Giving は日本ではあまり馴染みのない言葉かもしれませんが大洋州地域の学校では一般的で、簡単に言うと**表彰式兼卒業式**のようなものです。サモアの学校は１月末に年度がスタートして１２月半ばに１年が終わります。ですので、昨年度の Prize Giving は 12 月 15 日に行われました。

○サモアの Prize Giving

日本の卒業式のような厳粛な雰囲気は全くありません。屋外で青空のもと、歌や踊りを交えながら地域の人達も一体となった形で行われます。大きな流れとしては「校長や PTA、牧師さんの講話→表彰式→卒業生代表挨拶→パーッとみんなで盛り上がる」このような感じでした。途中に歌や踊りが頻繁に盛り込まれ、明るく楽しい雰囲気のものでした。

○衝撃的な表彰式

Prize Giving の中で一番衝撃的だったのが、表彰式。これは全学年（５学年）全教科（約 10 教科）の上位３名まで全て表彰されます。それは大変な量の表彰です。呼ばれた生徒は賞状と記念品を受け取った後、保護者や地域の人からレイを首にかけられます。総合成績優秀者に対しては写真のように半端ない量のレイがいろんな人からかけられていました。そして１つの学年の表彰が終わると、表彰された生徒達が前に出てきて、音楽に合わせて踊りだします、それに同調して先生や地域の人達も踊りだします。サモアでは重要な儀式のときにおいては歌と踊りは欠かせないものとなっているようです。

○みんな違ってみんないい

表彰がとても多い Prize Giving ですが、どの教科も上位の生徒の顔ぶれは決まっており、数人の優秀な生徒が賞を独占しているような状況でした。つまり一切表彰されない生徒はたくさんいます。しかし彼らも一生懸命学校生活を送っています。たとえ表彰されなかったとしても一人一人の得意な部分や素敵な部分は必ず存在します。自分も彼らが笑顔になれる瞬間を大切にしようと心がけております。みなさんも自分が楽しいと感じられる瞬間、笑顔になれる瞬間を追求して次のステップへ進んで欲しいと思います。その瞬間はみんな違ってみんないい。その瞬間を追求した時間はきっとみなさんの宝物になると信じています。少し早いですが３年生のみなさん卒業おめでとうございます。また会う日まで!　Fa soifua!

Letter from Samoa

サモア通信 4th
Jan.2018
豊橋南高校
青年海外協力隊
松川博明

Talofa!!新年あけましておめでとうございます。サモアでは暑い日が続き、全く季節感のない生活をしており、気づいたら年が明けていました。今回はサモアに来て感じたちょっとしたカルチャーショックや興味深い出来事を綴りたいと思います。

○シェアの文化

サモアのシェア文化、そしてホスピタリティはなかなか衝撃的なものがあります。食べ物のシェアは日常茶飯事。バス停でバスを待っているときに、見ず知らずのおばちゃんが「食べる？」とパンを渡してくることもあります。学校の冷蔵庫に食べ物や飲み物を入れておくと確実に他の先生の胃袋へ消えてなくなります。「食べ物＝みんなのもの」という感覚が浸透しているような気がします。その他にも、「ペン貸して」と言われて返ってこなかったり、「はさみ貸して」と言われて貸したら食パンを切っていることもあります。携帯電話もシェアします。誰かの携帯が鳴っていたら、とりあえず「Hallo?」と電話をとってから持ち主に渡したりしています。村で豚をさばいているところに行ったら、「足の部分持っていくか？」と言われたこともあります。

このようにありとあらゆるものを「シェア」するツッコミどころ満載の文化に戸惑うこともありますが、シェア文化の中の優しさに触れながら、楽しく過ごしております。

○全て無料

「All things are free.」サモアでよく耳にするフレーズです。サモアには至る所に、バナナ、ココナッツ、カカオ、マンゴー、アボカド、パパイヤが生えています。これらは全て勝手にとって食べることができます。先日家の屋根にマンゴーが落ちてきて「ドンッ！」と大きな音がしたと思ったら「マンゴー！」と子ども達が叫びながら走ってきました。

○心あたたまるストーリー

サモアのバスでは混雑すると写真のように他の人の膝の上に座ります。ある日、混雑したバスに乗っていたときの話です。１人の女性がバスから降車しようとしたとき、別の乗客から赤ちゃんを受けとって降りていきました。きっと女性もその乗客も面識はなかったと思います。それでも混雑したバスに赤ちゃんを抱えた女性が乗ってきたときに、みんなが座れるようにと親切心で赤ちゃんを預かったのでしょう。赤ちゃんをバスで受け渡しするなんて、日本では有り得ないことですが、サモアでは日常です。どんな人に対しても、みんなが居心地よく過ごせるようなホスピタリティの精神を見習いたいと改めて思った出来事でした。何か大きなことを成し遂げるよりも、身近な人へのちょっとした優しさが笑顔を広げる、そんな気がします。みなさん身近な人へのちょっとした優しさを忘れず毎日を過ごして欲しいと思います。それでは今年もよい１年を！Fa soifua！

Letter from Samoa

サモア通信 3rd
Nov.2017
豊橋南高校
青年海外協力隊
松川博明

Talofa!!サモア通信第３号です。１１月にもなり３年生は進路実現に向けてラストスパートをかけているところでしょうか。自分の目標に向かって努力を継続して欲しいと思います。さて、今回はサモアの村の生活について紹介したいと思います。

○協力隊の生活

協力隊の生活には２種類あります。それは「**1 人暮らし**」か「**ホームステイ**」です。１ 人暮らしについてですが、首都で日本と同じようなアパートで暮らしている隊員もいれば、学校の敷地内の小屋みたいな家に住んでいる隊員もいます。中には学校のひとつの教室に暮らしている隊員もいます。彼の家は１年Ａ組と理科室の間です。ちなみに自分は首都から少し離れた村で「ホームステイ」をしています。

○サモアでの新しい家族

これがサモアでの自分の家族です（少し近所の子も混じっています）。まさかこの歳になってこんな大家族の一員になるとは思ってもいませんでしたが、とっても楽しく生活しています。家族のほとんどとはサモア語で会話をし、豚９匹、犬５匹、猫３匹、鶏たくさんに囲まれております。豚の餌やりが自分の家族での役割となり、１０歳の弟と一緒に餌付けしております。

○村の生活

サモア人は基本的に暑い時間は動きません。朝の早い時間から活動（掃除や買い物）をし、暑い時間は**マロロ（休息）**をし、夕方くらいに料理や掃除をします。また、食事の時間が日によって違います。我が家では夜８時くらいが夕食のことが多いのですが、たまに夕方５時くらいのときもあります。ある日のこと、夜７時くらいに「Hiro!」と呼ばれました。晩ご飯かと思って行ったら、**豚の**晩ご飯の時間で、空腹の中、餌付けを手伝ったこともあります。最初はいろいろ生活リズムをつかむことに戸惑いましたが、今では「リズムがない」ことに完全適応して、マロロいっぱいのゆったりした生活をしております。

○日曜日は教会

サモア人の９５％は「キリスト教」です。そして、日曜日は神聖な日となっています。宗派にもよりますが、午前中に１～２時間ほど教会でお祈りをして、その後「トオナイ」と呼ばれるごちそうをいただき、午後からは**マロロ**です。日曜日に外で賑やかにすることは失礼な行為とみなされ、お店なども全て閉まっています。

○サモアでマロロは大切な文化

サモアの生活いかかでしょうか？彼らは隙あらばマロロしています。それが大切な文化なのです。彼らの文化を大切にしながら、日本人としての侍魂を心に抱きながら、サモアンライフを引き続き「楽しんで」いこうと思います。それではまた会う日まで！Fa soifua！

Letter from Samoa

サモア通信 2nd
Oct.2017
豊橋南高校
青年海外協力隊
松川博明

Talofa!!サモア通信第２号です！南高祭が終わり、日本では秋の訪れを感じている頃でしょうか。こちらサモアでは、村でホームステイが始まると同時に、学校にも赴任し、活動が始まりました。今回はサモアの学校について紹介したいと思います。

○サモアの教育システム

サモアでは「小学校→カレッジ（中高等学校）→大学」という形で構成されています。小学校はYear1～Year8(日本の年長～中１に相当)の８年間、カレッジはYear9～Year13(日本の中２～高３に相当)の５年間、大学はサモアには２つしかありませんが基本的には４年間です。

○サモアのカレッジ

自分はサモアのカレッジに派遣されているので、サモアのカレッジについてお伝えしたいと思います。赴任校のサガガカレッジ（以下サガガ）は５学年９クラス、生徒数は２５０人程度の学校です。

○授業について

システムは日本とよく似ています。月～木は７時間授業、金曜日は４時間授業（１コマ 40 分)、土日休み。２時～３時くらいに１日が終わります。とってもゆとりがある学校生活です。時間になったら教科担任の先生が教室に行って授業をやっているところも日本と同じですね。写真は教室での授業の様子です。

○自分の活動

自分の職種は「理科教育」です。与えられた任務としては以下の３つです。①生徒に直接授業をすること、②教員に実験のやり方等の指導法を指導すること、③帰国後も理科教育が継続するようなシステム作りをすること。③については理科室の設置、実験マニュアルの作成、教員用の指導ガイド作成、大学での講師等が考えられます。①～③以外にも、理科に関わらずいろいろなことに対して「積極的に」、でも、「ゆったりと」サモアンスタイルで活動を展開していきたいと思います。写真はBTB 溶液の使い方を理科の先生に教えている様子です。

○衝撃の事実

サガガでは入学時は１２０人（40 人３クラス）です。しかし、現在、最高学年 Year13 は 18 人です。様々な事情があり、退学してしまうのです。カレッジを卒業することが当たり前ではない文化もあるのでしょう。ただ、この事実を知った時、悲しい気持ちになりました。人生で今しか経験することができないカレッジ生活を楽しく過ごしてもらいたい。そのお手伝いが少しでもできたらなぁと思います。南高校のみなさんも今しかない高校生活を「いつも笑顔で元気に」時には休憩しながら、楽しく過ごして欲しいと思います。それではみなさんお元気で！Fa soifua(ファーソイフア、サモア語でさようなら)

Letter from Samoa

サモア通信 1st
Sep.2017
豊橋南高校
青年海外協力隊
松川博明

サモア通信第１号です！これからサモアのことや、協力隊の活動などを報告していきたいと思います。

○まずは自己紹介

松川博明と言います。専門教科は理科。好きなスポーツはハンドボール。サモア人はハンドボールを知りません。泣きそうです。豊橋南高校で４年間勤め、青年海外協力隊としてサモアへ派遣中。

○青年海外協力隊とは

「世界に笑顔を広げるシゴト」というキャッチコピーがあり、JICA(国際協力機構)の事業の１つです。２年間現地の人と同じ生活をし、文化や価値観を尊重し、直接ふれあい、交流しながら、その国が抱える問題に取り組み、経済や社会の発展に貢献することを目的としたボランティアです。

○サモアってどこ？

地図で表すとこの辺↓↓↓

ニュージーランドとハワイの間くらいにあり、日付変更線のギリギリ西側です。日本との時差は４時間で「**世界で一番早く明日を迎える国**」です。

○サモアってどんな国？

地図で分かる通り**小さい国**です。面積は約3000km^2(東京都の 1.3 倍)で、ウポル島とサバイイ島と呼ばれるメインの島が２つ。人口は２０万人弱で豊橋市の半分くらいですかね。海がめちゃくちゃ綺麗で田舎の村や海沿いには「ファレ」と呼ばれる壁のない家が並んでいます。

○サモア人ってどんな人？

とりあえず「**でかい**」。国民の 80%以上が肥満で There are many big people.って感じです。ポリネシア系の太りやすい体質と、太っている人が素敵という文化もあったらしいです。そして「**優しくてフレンドリー**」。道ですれ違ったときはウインクしながら挨拶してくれたり、バスが混雑しているときは席を譲ってくれたり、膝の上に座らせてくれたりします。そして何より「**マイペース**」時間に追われる感覚が彼らにはないようです。

○サモアの言葉って？

基本的にはサモア語。首都の大人は割と英語が通じます。でも、サモアに来ているからには彼らが大切にしているサモア語で交流したいなぁと思い、サモア語勉強中です。

○これから

現地研修が終了し、９月からいよいよ活動開始です。具体的な内容については活動開始後に報告します。ではではみなさん、夏休みが終わってしまいましたが、まずは南高祭楽しんでください！

○ちょこっとサモア語

Talofa（タロファ）→こんにちは
Fa' afetai（ファッアフェタイ）→ありがとう